

5問以上にチェックが入ったら要注意 運転時認知障害の可能性をチェック

運転時は、日常生活の中では気づきにくい認知機能の衰えが表れやすくなります。下記は認知症予備群ともいわれる軽度認知障害の人が運転時に表れやす

い事象をまとめたチェックリストです。30問中5問以上にチェックが入った人は要注意。専門機関への受診を検討してください。

運転時認知障害早期発見チェックリスト30

車のキーや免許証などを探し回ることがある。	気がつくと自分が先頭を走っていて、後ろに車列が連なっていることがよくある。
今までできていたカーステレオやカーナビの操作ができなくなった。	車間距離を一定に保つことが苦手になった。
トリップメーターの戻し方や時計の合わせ方がわからなくなった。	高速道路を利用することが怖く(苦手)になった。
機器や装置(アクセル、ブレーキ、ウインカーなど)の名前を思い出せないことがある。	合流が怖く(苦手)になった。
道路標識の意味が思い出せないことがある。	車庫入れで壁やフェンスに車体をこすることが増えた。
スーパーなどの駐車場で自分の車を停めた位置が分からなくなることがある。	駐車場所のラインや、枠内に合わせて車を停めることが難しくなった。
何度も行っている場所への道順がすぐに思い出せないことがある。	日時を間違えて目的地に行くことが多くなった。
運転している途中で行き先を忘れてしまったことがある。	急発進や急ブレーキ、急ハンドルなど、運転が荒くなった(と言われるようになった)。
よく通る道なのに曲がる場所を間違えることがある。	交差点での右左折時に歩行者や自転車が急に現れて驚くことが多くなった。
車で出かけたのに他の交通手段で帰ってきたことがある。	運転している時にミスをしたり危険な目にあったりすると頭の中が真っ白になる。
運転中にバックミラー(ルーム、サイド)をあまり見なくなった。	好きだったドライブに行く回数が減った。
アクセルとブレーキを間違えることがある。	同乗者と会話しながらの運転がしづらくなった。
曲がる際にウインカーを出し忘れることがある。	以前ほど車の汚れが気にならず、あまり洗車をしなくなった。
反対車線を走ってしまった(走りそうになった)。	運転自体に興味がなくなった。
右折時に対向車の速度と距離の感覚がつかみにくくなった。	運転すると妙に疲れるようになった。

特定非営利活動法人高齢者安全運転支援研究会
【監修】浦上克哉、日本認知症予防学会理事長、特定非営利活動法人高齢者安全運転支援研究会理事、鳥取大学医学部教授

家族や地域の安全を守りませんか 運転免許証自主返納



6月に夫婦揃って運転免許証を自主返納した富士見町時沢の小林恭雄さん(86歳)・タカ子さん(83歳)。これまでは自ら運転し買い物などに出掛けていましたが、駐車が以前のようにできなくなったことや相次ぐ事故の報道を見て返納を決意。今後は各種支援制度を活用しタクシーやバスを利用して出掛けを楽しみます(各種支援制度～をご覧ください)。

近頃、ニュースなどで耳にする機会が増えている高齢ドライバーによる交通事故。本市でも、全体の交通事故発生件数は年々減少しているにも関わらず、高齢者が関係した事故の割合は増加しています。事故の7割は交差点内や交差点付近で発生。主な原因はハンドル・ブレーキの操作ミスや安全確認などの安全運転義務違反です。今まで当たり前でできていたはずの運転に少しでも不安を感じたら、運転免許証の自主返納を考える必要があるかもしれません。普段乗っている車に、ぶつけた跡や傷が増えている。暗くなつてから運転すると標識や車線が見えづらくなってきた。そんな思いをしている人や家族に心当たりがあれば、自主返納について、一度話し合ってみてください。

交通安全課
027-8608-6293